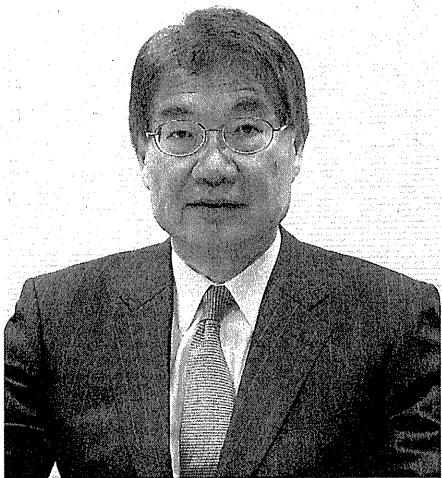


JFEシビル(藤井善英社長、東京都台東区)は、大型物流施設の建設実績を右肩上がりでも伸ばしている。2017年3月期の売り上げは前期比21.9%増の860億円を見込む。また、今期に推進している6件の大型物流施設建設プロジェクトが大きく寄与し、18年3月期には1千億円の突破を視野に入れる。藤井社長(64)は「これからは中小物流施設のニーズにも力を入れたい」と話す。

—大型物流施設の受注 京都八王子市)、「三井不動産」が近年の売り上げ拡大をけん引している。大塚(神奈川県平塚市)、「ロジックエア守谷」(茨城守谷市)と、6件の大型物流施設の建設を進めている。工業化製品や省力化を積極的に採用し、コスト競争力もお客さまの要望に添えている。

JFEシビル社長 藤井 善英氏

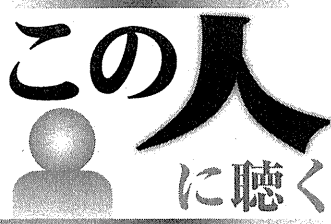


来期売上高1000億円視野

今期が過去最高レベルだと思いますが、向こう数年間は高水準を維持するとみています。ただ、冷凍冷蔵倉庫や危険物倉庫など差別化した施設が求められてきています。更に、食堂や保育施設、カフェなどを備えた施設や、デザインにも配慮した快適な施設をベースとした

「メタルビル」というシステム建築商品を所有している。これは建物と外壁、建具を標準化した商品で、柱の間隔が30センチメートルな

中小物流施設ニーズに力



は設備設計や施工図、施工後の設備機器・配管などの維持管理にも利用したい。現場のIT化も推進しており、打ち合わせにiPadなどを使っている。主な現場などの需要は以前から多く、我が社では成田空港や那覇空港、新函館北斗駅などで手掛けた。最近では従業員用の平置き駐車場のスペースが取れなくなり、立体駐車場を造りたいという需要が増えてきている。

「メタルビル」という自己完結型という。建設業界でも最新技術の活用が進んでいる。建設業界もIT(情報技術)化をもっと図っていくべき。BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)を駆使した設計ニーズが高まると考えている。意匠・構造設計を中性と遮音性に優れているが、今後

(沢田 顕嗣)

ふじい・よしひで 1952年4月生まれ、大阪府出身。75年京都大学経済学部卒業、川崎製鉄(現JFEスチール)入社。2004年原料部長、05年常務執行役員、08年専務執行役員。12年4月から現職。